

第3章 防災啓発・教育活動

1. 平成22年度 あいぼう会活動報告

あいぼう会事務局 鳥居雅隆

2007年に設立した「地震に強いものづくり地域の会（通称：あいぼう会）」は、4年目を迎えた。活動内容はこれまで同様、防災ワークショップ、見学会、勉強会、講習会を柱とし、月に1回の活動（毎月第4水曜日）を行った。以下に活動スケジュールを示す。

1. 例会

2010年4月28日（水）13:30 - 17:00

第1部では、防災科学技術研究所より講師をお招きして、講演会「災害リスク情報の企業防災への活用」が開催された。この講演会は一般聴講者も参加可能とした。

あいぼう会会長挨拶、愛知県防災局来賓挨拶に続いて、防災科学技術研究所の長坂俊成氏により「災害リスク情報プラットフォームの研究開発ーリスクガバナンスを高度化するリスクコミュニケーション手法ー」、同所の白田裕一郎氏により「災害リスク情報プラットフォームの研究開発ーeコマウェアの開発と活用事例ー」の基調講演が行われた。

第2部では、2010年度総会が開催された。会長挨拶に続き、あいぼう会事務局より2009年度会計報告、活動報告、2010年度活動方針が発表され、これらについて審議された。

引き続き、第1WS：倉橋 奨氏「あいぼう会版 企業防災事例集2010」、第2WS：古瀬勇一氏「災害リスク情報の企業防災活用」、第3WS：内藤克己氏「あいぼう会版 防災力検定」により2010年度防災ワークショップの説明が行われた。

最後に、内藤克己運営委員長により閉会の辞が述べられて、2010年度あいぼう会例会は閉幕した。

2. 勉強会

2010年 5月26日（水）15:00 - 15:30 第7回勉強会 講師：正木和明氏

「名古屋の製造業地震対策事例集～名古屋商工会議所編集事例集紹介～」

10月27日（水）15:00 - 15:30 第8回勉強会 講師：佐々木務氏

「～防災力検定の実施について～」

緊急報告会

2010年 8月25日（水）15:00 - 15:30 緊急報告会 講師：小松幹雄氏

「平成22年7月15日 岐阜県可児市・八百津を襲った豪雨災害について」

2011年 3月16日（水）15:00 - 15:30 緊急報告会 講師：正木和明氏

「～東日本大震災について～」

3. 見学会

2010年 7月28日（水）15:00 - 17:00 第8回見学 「愛知県警察本部」

12月22日（水）13:30 - 17:00 第9回見学会 「愛知県企業庁、名古屋市上下水道局」



写真1 愛知県警察本部



写真2 愛知県企業庁、名古屋市場下水道局

4. 防災ワークショップ(防災WS)

2010年度は、業種・業態ごとに、第1WS「企業防災事例集」、第2WS「災害リスク情報」、第3WS「防災力検定」の3つの班に分かれ、班ごとにテーマをもって取り組み作業が進められた。

2010年 5月26日 第9回 防災WS

6月23日 第10回 防災WS

8月25日 第11回 防災WS

9月29日 第12回 防災WS【中間報告会】

10月27日 第13回 防災WS

11月24日 第14回 防災WS

2011年 1月26日 第15回 防災WS

2月23日 第16回 防災WS

3月23日 第17回 防災WS【東日本大震災 意見交換会】



写真3 ワークショップの様子

5. 運営委員会

会活動の運営をスムーズに図るため、本年度も下記の日程にて運営委員会を開催した。

2010年 5月26日 第38回 運営委員会

6月23日 第39回 運営委員会

8月25日 第40回 運営委員会

9月29日 第41回 運営委員会

10月27日 第42回 運営委員会

11月24日 第43回 運営委員会

2011年 1月26日 第44回 運営委員会

2月23日 第45回 運営委員会

3月23日 第46回 運営委員会

6. あいぼう会ロゴマーク決定

あいぼう会会員の皆様へのアンケート結果および皆様からのご意見・ご要望を参考としまして、あいぼう会ロゴマークが作成された。これを正式なあいぼう会公認のロゴマークとし、さらにはあいぼう会初のオリジナルグッズとしてネームストラップを作製した。



図1. あいぼう会ネームストラップ



図2. あいぼう会ロゴマーク

6. 防災対策セミナー

2011年 2月3日 14:00 - 16:00 防災対策セミナー 名古屋商工会議所 (5階D会議室)

❖名古屋商工会議所主催、愛知工業大学地域防災研究センター・あいぼう会共催

『今だからできる！お金のかからない中小企業のための防災対策セミナー』の開催

- 第一部「誰でもできる防災対策案の作成」講師：正木和明氏
- 第二部「体験型実習型の社員防災教育」講師：早川澄男氏

7. まとめ

この度の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に対しましては、心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

今年度は、ニュージーランド南島クライストチャーチ地震や東日本大震災など、震災に見舞われた年であった。

これまでの経験が大いに役立ったこともあれば、一方で「想定外」という言葉に含まれるように、新たな大きな課題が浮き彫りとなった2010年度であった。

2009年度から事務局を愛知工業大学地域防災研究センターに移し、事務局員の確保と予算処置が図れる体制の中、1年度を通しての活動は活発に実施された。

経験を風化させることなく、後任へとその経験を伝えていく難しさがある中、互いに切磋琢磨して自己の能力を向上させる地道な努力によってあいぼう会は成り立っている。

しかしながら、いつ起きてもおかしくない、いつ起こるか分からない地震に対して、常に高いモチベーションを維持・継続することは、個人（防災担当者）あるいは一企業では難しく、あいぼう会がいかに大切な役割を果たしているのかよく分かると言える。

2. 社会人防災マイスター養成講座

正木和明

中部圏は日本のものづくりの中核地域であると同時に、東南海地震などの大地震が警戒されている地域でもある。社会人防災マイスター養成講座は、企業の防災担当者を主な対象に、非常時にリーダーとして活躍できる人材を養成して、企業や地域が不幸にして被災した場合でも速やかに活動を再開できるようにすることを目的としている。愛知工業大学を中心として、連携校である名古屋工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校の教員が参加して平成21年10月に開講した。本講座は1年間の課程として、半期3科目（年間6科目）を受講することとしている。各科目は90分授業を15回行うため、年間で135時間の授業を開講することになる。学校教育法に基づき120時間以上の授業を受講した履修生に「履修証明書」を交付する。対象者を社会人としているため、授業はeラーニングを中心として便宜を図るようにしているが、マイスターとして指導力を発揮するための問題解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、各履修生は個人・グループの研究発表を最終授業で行うこととしている。また、授業のレベルは概ね学部上級生から大学院修士課程程度を目安としている。

21年10月には10名の履修生が参加して、業務の都合等で欠席することはあったが、最終的に6名の履修生が「履修証明書」の交付を受けた。また、本講座は年2回（4月、10月）募集をしており、22年4月、10月にそれぞれ10名程度の履修生が新たに参加している。履修生は概ね企業の防災担当者を中心となっているが、自営業者、NPO参加者など多岐に亘っている。また年齢層も様々で、各履修生は目的意識をもって学習に励んでいる。具体的な内容を以下に示す。

1) 受講生と受講期間

- 第1回受講生（10名） 平成21年10月～平成22年2月（3科目）
平成22年4月～平成22年8月（3科目）
第2回受講生（10名） 平成22年4月～平成22年8月（3科目）
平成22年10月～平成23年2月（3科目）

2) 受講科目

- ・秋期（10月～2月）3科目 防災学概論・企業防災論・防災フィールドワーク
- ・春期（4月～8月）3科目 建築防災論・地域防災論・防災リテラシー

3) 講師

- 愛知工業大学 正木 和明 都市環境学科 教授
建部 謙治 建築学科 教授
岡田 久志 建築学科 教授
倉橋 奨 地域防災研究センター ポストドクトラル研究員
森田 匡俊 非常勤講師 名古屋大学ポストドクトラル研究員
内藤 克巳 大学院工学研究科非常勤講師（元清水建設株式会社技術顧問）
今井 則久 非常勤講師（中部電気保安協会）
- 名古屋工業大学 渡辺 研司 大学院工学研究科社会工学専攻 教授
秀島 栄三 都市社会工学科 准教授
越島 一郎 都市社会工学科 教授
横山 淳一 都市社会工学科 准教授

名古屋工業大学 兼田 敏之 建築デザイン工学科 教授
大同大学 鷺見 哲也 都市環境デザイン学科 准教授
豊田工業高等専門学校 今岡 克也 建築学科 教授

4) 講義形態

講義 (6回/半期) : 火曜日 13:00 ~ 17:50 (3科目)

eラーニング (9回/半期) : インターネットを使った在宅講義

フィールドワーク : 「防災フィールドワーク」で平日に3回実施

講義時間を調整して「特別研究」(履修生が講座で学んだ事項を元に自身の興味ある分野を研究して、最終的に成果を発表する)を実施した。

1年間で前期3科目、後期3科目を受講(総時間数135時間)

5) 修了要件

レポート等によって科目の成績評価を行なう。履修時間が120時間以上で全ての科目に合格した場合、「履修証明書」を交付

6) 講義内容

◦ 防災学概論 (災害のしくみ・災害事例・災害対策)

東海地域は我が国で地震発生確率が最も高い地域の一つであり、地域や企業において防災対策を積極的に推進できる人材が求められている。本講義は、防災のしくみ、この地域の災害の特徴、災害軽減対策など災害に関する基礎項目を概観する。内容は学部生4年生のレベルであり、マイスターとして最小限の知識を学び、他科目の各論を理解できるための基礎学力を教授した。

講師 愛知工業大学 正木 和明 教授

◦ 企業防災論 (防災診断・BCP・防災マニュアル)

東海地域は我が国で有数のものづくり企業の多い地域であり、事業継続計画に基づく防災対策を積極的に推進することによって、早期に事業を再開することが企業には求められており、その結果がひいては地域の活性化につながり地域貢献ができる。事業継続計画の基本構想や事例、防災診断・防災カルテによる企業の現状分析、防災マニュアル作成・防災GIS活用など、経営者・防災担当者に求められる知識を教授した。

講師 愛知工業大学 建部 謙治 教授

愛知工業大学 内藤 克巳 大学院工学研究科 非常勤講師

◦ 防災フィールドワーク (現場見学・リーダーシップ能力)

防災担当者には専門的知識だけでなく、社員や住民の支持を得て専門知識に裏づけされた冷静な行動を取ることが出来るリーダーシップ能力が要求されている。本講義では、4回にわたり現場施設の訪問による現地学習を行い、現地担当者との意見交換を通じて実践的学習を行った。防災施設の確認、災害規模予測の提案、また災害復旧に関する防災組織編成の学習などを通じて、現実に発生した災害に対して職場・地域においてリーダーシップを発揮しうる専門者の育成を目指した。

講師 愛知工業大学 今井 則久 非常勤講師

◦ 建築防災論（地震・火災・事務所・施設・設備・木造住宅）

震災時に企業の事務所・工場などの施設や地域の木造住宅などの構造安全性を確保することは災害軽減対策の基本であり、また、施設内の設備や非構造部材の耐震性を確保することは非常に重要である。本講座では過去の建物被害の特徴を踏まえて、最新の建築物の耐震技術や防火規定などを紹介し、建物防災の専門的な知識を修得する。前半では、建築物（木造・RC造・鉄骨造）の耐震安全性と防火安全性について、地震や火災の発生メカニズム、それぞれの建築物の主要な被害、規定の変遷、被害軽減対策などについて学ぶ。後半では、事務所や工場などの施設と設備について、地震による被害事例、被害軽減対策、耐震補強対策などについて防災担当者として必要な基本的知識を教授した。

講師 豊田工業高等専門学校 今岡 克也 教授

愛知工業大学 岡田 久志 教授

◦ 地域防災論（リエゾン・ハザードアセスメント・リスクマネジメント）

我々は一人一人が、世帯・自主防災組織等の地域コミュニティ・事業所・自治体等々の何らかの社会的組織の一員として日常生活において地域と強いつながりをもっており、災害時にはそれぞれが自助・共助・公助という形で役割を担っている。それぞれの組織の役割分担と連携を理解することで、地域防災は円滑かつ効果的に機能する。本講義は、主として地震災害・火災・風水害を対象とする防災対策について、地域との関わりで解説した。また、実践的な防災の考え方を身につけることを目標におき、公表資料を用いたトレーニング等を実施した。

講師 大同大学 鷲見 哲也 准教授

名古屋工業大学 渡辺 研司 教授 秀島 栄三 准教授 越島 一郎 教授

横山 淳一 准教授 兼田 敏之 教授

◦ 防災リテラシー（防災教育・防災GIS・WebGIS）

防災対策を実践的に実行するためには災害に関する知識や情報を社員に十分に理解させて始めて可能になる。防災担当者には、知識や情報を分かりやすくかつ正しく伝えることが出来る技術・手法の修得により社員とのリスクコミュニケーションや企業のリスクマネジメントを積極的に行える能力が求められる。本講座では実習形式で、Windowsのパワーポイントやマクロ、防災GIS、WebGISなどの技術を修得し、企業トップや社員に分かりやすくかつ正しく情報・知識を伝える知識と技術を教授した。

講師 愛知工業大学 倉橋 奨 地域防災研究センター ポストドクトラル研究員

森田 匡俊 非常勤講師

◦ 特別研究および表彰制度

防災マイスターとして指導力を発揮するため、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を習得するため、各履修生は個人研究とグループ研究を行っている。問題解決能力を習得するため、各自で研究テーマを決定し、コミュニケーション能力を習得するため、グループ研究を行う。履修生は、講義実施日に、特別研究の時間を設け、研究の目的、方法、結果、結論についてまとめる。最終日には、レジメの提出とパワーポイントを用いた口答発表が課せられる。発表では、各講師及び履修生から質問を受け、回答する。発表を通じて、プレゼンテーション能力を習得している。

また表彰制度を設けて、履修生の中から最優秀賞、優秀賞、奨励賞の各賞の該当者を選び、修了式で賞状が授与された。優秀履修生のなかには、所属企業からさらに社長賞などの栄誉が与えられた事例もでてい



写真1 本山キャンパスにおける授業風景



写真2 フィールドワーク授業風景



写真3 グループ発表の様子

3. 緊急地震速報を活用した第5回防災訓練の実施

平成22年10月26日(火)11時30分～12時30分、第5回防災訓練を実施した。これまで避難訓練として実施してきたが消防法の改正に伴い名称を防災訓練としたものである。回を重ねるに従い内容を充実し、より実践的な訓練となっている。今回は、昨年度訓練内容に加え、新1号館3階からの救助袋を用いた脱出訓練、時間を盛り込んだ災害シナリオに基づく訓練の実施、避難場所(サッカー場)における放送設備の充実(対策本部から対策本部の動きを伝える設備の新設)、自由が丘キャンパスとの映像による会義、災害用ヘリコプターの着離陸実験、などが追加された。

参加者(対策本部等要員を除く避難者)は、八草キャンパス(学園本部を含む)、自由が丘、本山キャンパスの大学全体が3,106人(学外者を含む)、附属中学が357人、高等学校が1,827人、専門学校が142人であり、学園全体で5,534人が参加した。参加人数はこれまでと大差はない。他大学からの見学者は9大学16名であった。

表1 年度ごとの特記すべき訓練内容

平成18年度	・負傷の搬送と救護の訓練(AED使用訓練)
平成19年度	・負傷の搬送と救護の訓練(AED使用訓練)
平成20年度	・負傷の搬送と救護の訓練(AED使用訓練) ・バーコードリーダーでの避難広場人数確認
平成21年度	・負傷の搬送と救護の訓練(AED使用訓練) ・バーコードリーダーでの避難広場人数確認 ・放水訓練(一部学生) ・消火器訓練(一部学生)
平成22年度	・負傷の搬送と救護の訓練(AED使用訓練) ・バーコードリーダーでの避難広場人数確認 ・放水訓練(一部学生) ・消火器訓練(一部学生) ・学生への訓練資料事前配布 ・逃げ遅れ者の救助袋訓練(一部学生) ・ヘリコプター離着陸

表2 年度ごとの参加者(八草キャンパス)

防災訓練 実施年月日	避難広場避難者人数(人)
平成18年12月14日(木)	3179
平成19年10月31日(水)	3166
平成20年12月11日(木)	3021
平成21年10月29日(木)	3024
平成22年10月26日(火)	3106

図1は八草キャンパスにおける避難者をビデオカメラ映像により数えた避難者数時間推移である。訓練の積み重ねにより、避難に要する時間は短縮され、11時30分の避難放送開始後、12時16分にはほぼ全員が避難を完了し、18分には対策費本部に安否確認数報告が終了している。

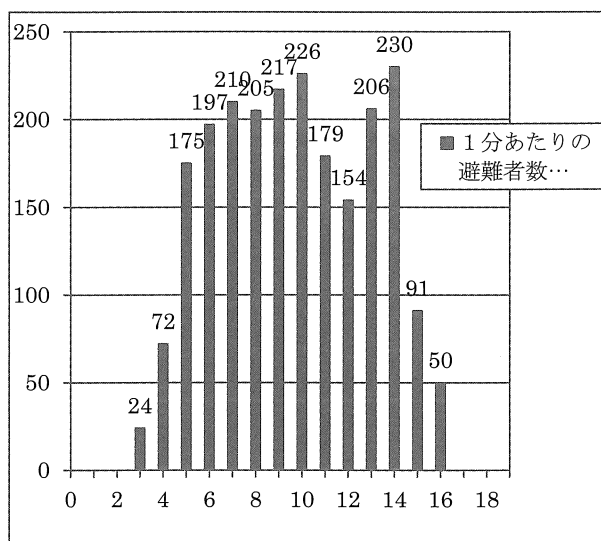


図1 避難者数の時間推移(横軸は避難放送開始からの時間、縦軸は毎分あたりの避難者数)



写真1 サッカー場における避難状況



写真2 放水訓練



写真3 救助袋による脱出訓練

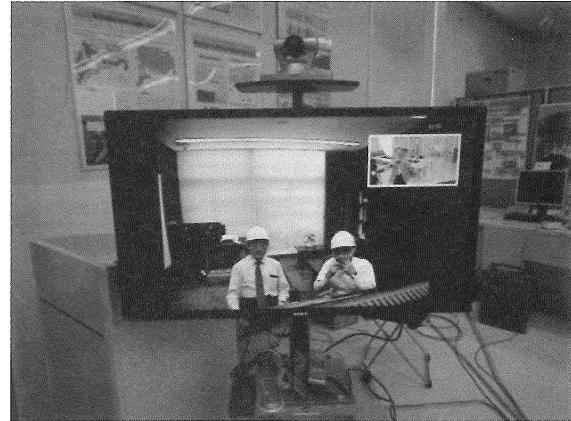


写真4 自由が丘キャンパスとの映像会議



写真5 防災ヘリコプター離着陸実験

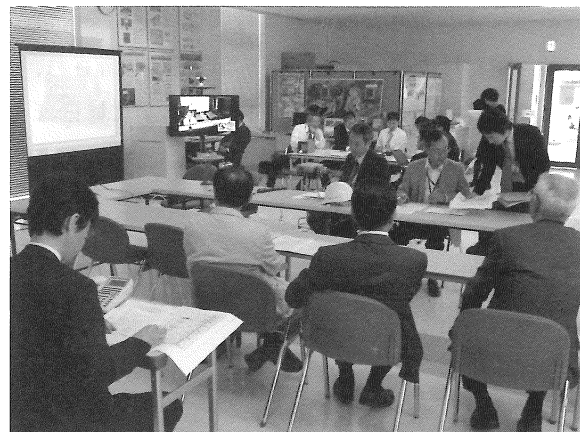


写真6 災害対策室の様子

4. 本山キャンパス公開講座「地域防災研究センター講座」

平成22年度も引き続き本山キャンパス公開講座（秋季講座より、名古屋キャンパス公開講座と名称変更）の1講座として「地域防災研究センター講座」を開催した。この講座は他の講座と異なり受講料無料とし、地域の一人に一人でも受講してもらうことによって、本学が地域に貢献できるよう企画されている。

以下の講座が開催された。

○春季講座「防災講座」

地域防災研究センターは地域の皆さんと連携しながら防災に関するプロジェクトに取り組んできました。本シリーズはそれらの実例を紹介しながら市民防災について考えて行きたいと思います。講義には自治会で家具転倒防止に取り組まれた団地の方や、障害者支援に取り組まれている団体の方をお招きし、生の声を聞かせていただく予定です。

講師 愛知工業大学地域防災研究センター長 正木和明教授

開講日 5月22日（土）「家具転倒防止への取り組み方・やり方」

6月26日（土）「過程の具体的防災対策」

7月24日（土）「災害弱者への支援活動の在り方」

○秋季講座「市民のための地震学講座」

地震学のハイレベルな最近の研究を市民目線に合わせてわかりやすく講義します。

講師 愛知工業大学地域防災研究センター長 正木和明教授

開講日 10月22日（土）「プレートテクトニクスと地震」

10月16日（土）「地震波と地盤震動」

10月30日（土）「巨大地震の震度・被害予測」

地域防災研究センター講座 **受講料無料**

●市民のための地震学教室
地震学のハイレベルな最近の研究を市民の目線に合わせてわかりやすく講義します。
【講師】愛知工業大学
地域防災研究センター長 正木 和明
■開講日/① 9月25日(土)
「プレートテクトニクスと地震」
②10月16日(土)
「地震波と地盤震動」
③10月30日(土)
「巨大地震の震度・被害予測」
■開講時間/10:00~11:30
■会場/本山キャンパス

受講料無料 **地域防災研究センター講座**

●防災講座
地域防災研究センターは地域の皆さんと連携しながら防災に関するプロジェクトに取り組んできました。本シリーズはそれらの実例を紹介しながら市民防災について考えて行きたいと思います。講義には自治会で家具転倒防止に取り組まれた団地の方や、障害者支援に取り組まれている団体の方をお招きし、生の声を聞かせていただく予定です。
【講師】愛知工業大学
地域防災研究センター長 正木 和明
■開講日/①5月22日(土)「家具転倒防止への取り組み方・やり方」
②6月26日(土)「家庭の具体的防災対策」
③7月24日(土)「災害弱者への支援活動のあり方」
■開講時間/10:00~11:30

写真1 講座案内

5. あいち防災フェスタに出展

2010年11月8日(日)に、「あいち防災フェスタ(あいち防災協働社会推進大会)」が、モリコロパーク(愛・地球博記念公園)大芝生広場で開催され、地域防災研究センターも出展いたしました。このイベントは、自主防災会や消防団、企業、高校及び大学などが30ブース出展され 大規模な防災啓発イベントとなりました。約6000人の入場者を集め 多くの市民が防災について学びました。

地域防災研究センターでは、間仕切りセットを利用して避難所体験を行ったり、災害レスキューロボットのラジコンを使って 子どもたちにロボット救助の体験をしてもらいました。



図 1. あいち防災フェスタのポスター

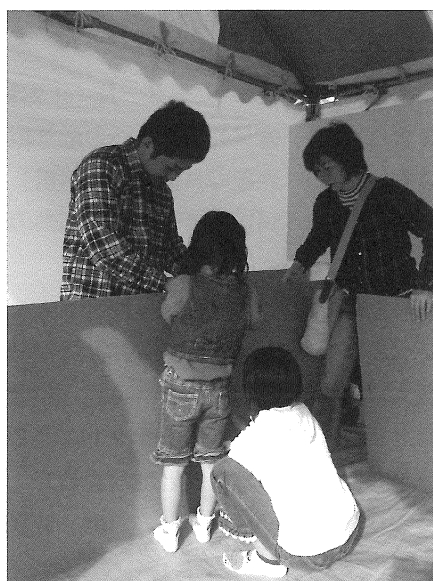


写真 1. 間仕切りセットで避難所体験



写真 2. レスキューロボットで救助体験

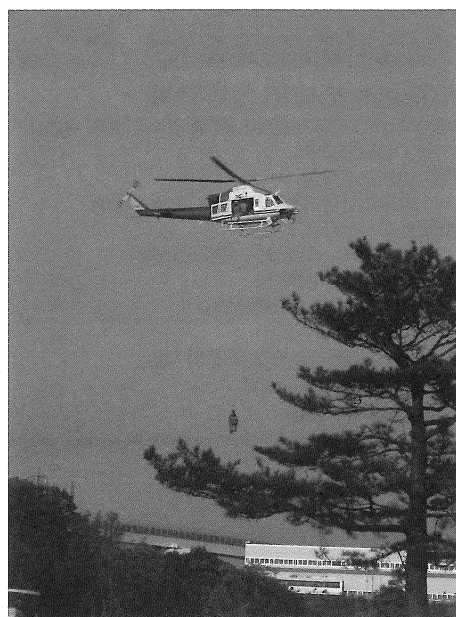


写真 3. ヘリコプターの救助訓練の様子

6. 上社北住宅における家具固定支援

平成21年度に家具の転倒危険度調査を実施した。22年度当初に危険度調査により住民から実際の家具の固定方法を体験したいとの要望が寄せられた。幸運にも、マンション内に空き部屋を持つ住民の方がおられ、この空き室をモデルルームとして実際の家具を固定して見せる企画が発足し、これをお手伝いすることとなった。

支援した上社北住宅は愛知県名古屋市名東区社口1丁目202に1971年10月に建設され、RC構造の地上7階建が2棟で、総戸数は220戸である。旧耐震基準で建設されているが、強固な地盤の上であり、東海・東南海連動地震ハザードマップ³⁾によると想定震度は震度5強、液状化の危険もほとんど無いと想定されている。建物の補強はされていないが、倒壊の危険は無く、各戸における家具転倒対策が重要課題となっている。



図1 北住宅外観



写真1 展示場（部屋）の様子

見学者の方には固定具の接着、固定具を接着した後の家具の動かし方、接着の剥離を実演して使い方を解説し、リンテック21の耐震試験の映像で強度を説明した。最後に、任意で家具固定に関するアンケート調査を実施した。支援するマンションはRC構造の建造物であり、釘やビスなどの金具を用いた固定法は手間が掛かったり、穴を空ける際の騒音や、後の修復が困難であるといった問題がある。また、賃貸住宅では穴を空けることが禁止されている場合がある。今回展示した固定具は、家具と壁を固定具の粘着テープで固定するもので、壁などを傷つける必要はなく、移動や剥離も容易にできる物である。しかも、どの固定具も小さく軽量で扱いやすいため、家具の固定が簡単にできる。

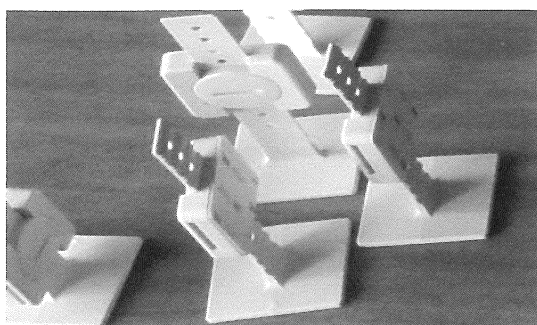


写真3 リンクストッパー I 型

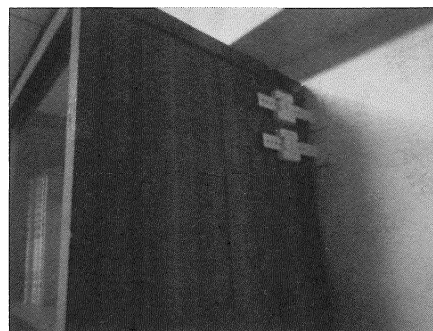


写真4 本箱に取り付けた様子

見学者の総数は約70人で、60代以上が大多数だった。11月15日から12月20日までの週3日間、計14日間開催して、1日平均5人の人が来場した。また、アンケートに回答した人は50人だった。

見学者に対しアンケート調査を実施した結果を示す。すでに対策をしているという人は29人で、多数がつっぱり棒による固定で、ビスやアンカーなどの金具での固定と家具を壁に向けて傾けて倒れにくくする方法がそれに次いだ。今回用意した固定具のような接着・粘着テープを使っているのは1世帯のみだった。

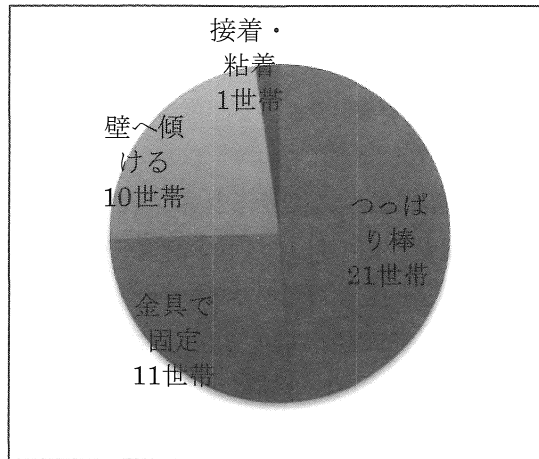


図1 見学者の対策方法

対策をしていないと答えた人は21人で、必要性を感じていない、やろうと思っているけど機会がない、やり方がよく分からないといった回答だった。しかし、全員が今後対策をしようと回答し、すでに対策をとっているという人も25人がさらに対策をすると回答した。

展示終了後、実際に自分の部屋を見て欲しいとの要望があり、見学者の部屋を訪問し、固定具の選択や固定を優先する家具などについて指導した。居間や寝室のような日常生活でよくいる場所に大型の家具が置いてある場合が多かった。すでに固定を行っている世帯は、アンケートのようにつっぱり棒や金具で固定をしていた。

7. 地域防災研究センター見学会

平成22年度は、654名の方が地域防災研究センターを見学いたしました。

主に高校生や保護者、防災ボランティア等の市民の方が見学や講義・防災体験を通して防災について学びました。

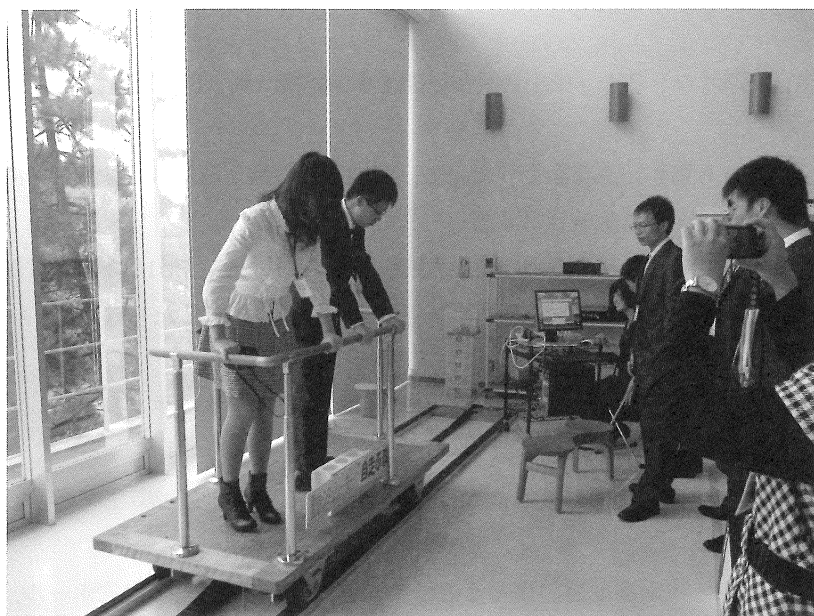


写真1. 自走ぶるるで地震を体験（東南大学の視察団）

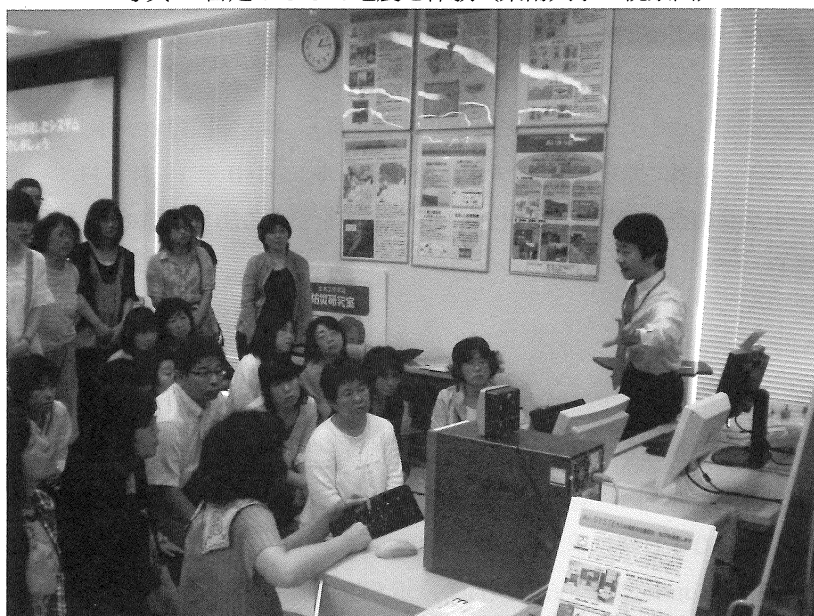


写真2. 緊急地震速報装置の説明を聞く見学者（PTAの方）

●講演会等リスト

【正木和明】

- ・家具転倒防止講演会「何故家具転倒防止が必要か？その具体的方法」，名古屋市上社北住宅集会室，2010年4月18日
- ・本山キャンパス公開講座「防災講座」，愛知工業大学本山キャンパス，2010年5月22日，6月26日，7月24日
- ・豊川商工会議所産学官交流サロン21「中小企業が目指す事業継続計画（BCP）」，豊川商工会議所2階ホール，2010年6月7日
- ・西区危険物安全協会創立60周年記念講演会「東海沖巨大地震への備え～西区の地盤・予測被害・地震対策」，ウェスティンナゴヤキャッスル，2010年6月8日
- ・教員免許更新研修会「先生と子ども達のための防災教育」，愛知工業大学，2010年8月19日
- ・AITオープンフォーラム「本学は全国の大学で最初に緊急地震速報導入しました」，京都タワーホテル，2010年9月11日
- ・名古屋キャンパス公開講座「市民のための地震学教室」，愛知工業大学本山キャンパス，2010年9月25日，10月16日，10月30日
- ・豊橋市防災講演会「東海・東南海地震に立ち向かう～地震被害のしくみと対策法を考える」，豊橋市公会堂，2010年10月2日
- ・田原市防災カレッジ「東海・東南海地震の姿とその備え」，田原市文化会館多目的ホール，2010年10月16日
- ・豊明市防災講演会「東海・東南海地震に立ち向かう～地震のしくみと対策法」，豊明市文化会館，2010年11月28日
- ・愛知県鍍金工業組合安全衛生セミナー「地震に対する職場対策」，名古屋国際ホテル，2010年12月1日
- ・応急危険度判定士講演会「地震に関する講演」，中区役所ホール，2010年12月3日
- ・名古屋商工会議所中小企業のための防災対策セミナー「誰でもできる防災対策の作成」，名古屋商工会議所会議室，2011年2月3日

【入倉孝次郎】

- ・入倉孝次郎，倉橋奨，正木和明「直下地震や巨大地震に有効な緊急地震速報の高度化をめざして」日本地球惑星科学連合，幕張メッセ，2010年5月27日，
- ・入倉孝次郎，松元康広，司宏俊，内陸地殻内地震の特性化震源モデルの高度化—短周期レベルと地震モーメントの関係—，日本地震学会2010年秋季大会，広島国際会議場，2010年10月27日
- ・Kojiro Irikura and Susumu Kurahashi, EVALUATION OF STRONG GROUND MOTIONS FROM FUTURE LARGE CRUSTAL EARTHQUAKES FOR SEISMIC SAFETY OF NUCLEAR POWER PLANTS, The 8th ASC General Assembly (ASC2010), ベトナム，ハノイ，2010年11月10日
- ・入倉孝次郎，倉橋奨，長大な活断層に発生する地震に対する強震動予測のためのレシピの高度化，第13回日本地震工学シンポジウム，つくば国際会議場，2010年11月19日
- ・"Further Advancement of Strong Motion Evaluation -Expectation for deep boreholes seismic observation and geophysical exploration from viewpoint of ground motion evaluation-" At the joint session on "Session A: Earthquake and Ground Motion" and "Workshop 1: Seismic Observation in Deep Boreholes and its

Applications”, In First Kashiwazaki International Symposium on Seismic Safety of Nuclear Installations “Mission for Technology Innovation toward Next Generation” Organized by Japan Nuclear Energy Safety Organization (JNES) and International Atomic Energy Agency (IAEA) Niigata Institute of Technology, Kashiwazaki, Niigata, 2010年11月24日

・東京大学地震研究所研究集会「揺れる直前の地震動 予測：さらなる迅速化と精度向上」「直下地震および巨大地震に対応した緊急地震速報の高度化」東大地震研究所，2010年12月6日～7日

・Kojiro Irikura and Susumu Kurahashi, Recipe for predicting strong ground motions for inland mega fault earthquakes, The 2001 Bhuj Earthquake and Advances in Earthquake Science, インド Gandhinagar, 2011年1月24日

【建部謙治】

・愛知県医師会総合政策研究機構「公営住宅の建て替えと課題、子育て・高齢者・地域医療」，愛知県医師会館，2010年10月6日

【奥川雅之】

・サイエンススクール 2010 ロボット製作講座「レスキューロボットとは」，岐阜県先端科学技術体験センター（サイエンスワールド），平成22年8月25日～26日，11月13日

●各種委員

【正木和明】

- ・独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）名古屋市地域研究会委員
- ・中部近畿地方鉱山保安協議会委員
- ・愛知工業大学サイエンス大賞審査委員長
- ・岐阜県高等学校総合文化祭自然科学系部活動研究発表会・交流会審査委員長
- ・充填技術センター技術委員

【入倉孝次郎】

- ・日本学術会議連携会員
- ・独立行政法人防災科学技術研究所客員研究員
- ・内閣府原子力安全委員会専門委員
- ・文部科学省地震調査推進本部地震調査委員会委員，強震動評価部会長
- ・文部科学省地震調査推進本部地震調査委員会委員会総合部会委員
- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員
- ・文部科学省公募選定技術審査専門員
- ・独立行政法人海洋研究開発機構南海トラフ巨大地震連動性評価研究運営委員・研究推進委員
- ・独立行政法人防災科学技術研究所「地震瞬時速報利用検討会」委員長
- ・独立行政法人防災科学技術研究所強震観測事業推進連絡会議委員
- ・独立行政法人原子力安全基盤機構試験研究等外部評価委員
- ・独立行政法人原子力安全基盤機構安全研究評価委員会委員

- ・独立行政法人防災科学技術研究所ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究に関する運営委員会委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員
- ・リアルタイム地震情報利用協議会強震動のデータのリアルタイム利活用及び超深層観測データの利活用ニーズに関する調査・研究推進委員会議長
- ・財団法人原子力安全技術センター「地震ハザード評価に関する基礎的・技術的調査」委員
- ・財団法人原子力安全技術センター「耐震検討会」委員
- ・財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構「災害対策全書編集企画委員会」委員
- ・社団法人日本地震学会 IASPEI 委員会委員
- ・社団法人日本地震学会災害調査委員会委員
- ・社団法人日本地震学会倫理委員会委員
- ・社団法人日本地震学会代議員
- ・財団法人地震予知総合研究振興会地震防災評価機構運営会議委員
- ・財団法人地震予知総合研究振興会サイスマテクトニクス研究会委員
- ・財団法人震災予防協会監事
- ・日本活断層学会理事
- ・財団法人地域地盤環境研究所評議員

【建部謙治】

- ・豊田市都市景観審議会委員・会長
- ・日本インテリア学会東海支部長
- ・日本建築学会東海支部東海賞選定委員会委員長
- ・愛知県防犯コンテスト審査委員会委員

【奥川雅之】

- ・レスキューロボットコンテスト実行委員会副実行委員長
- ・レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会(A-TS10-40)」主査
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会(A-TS10-39)」委員
- ・計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会プログラム委員
- ・岐阜県ロボット産業推進協議会アクションプラン評価部会委員
- ・岐阜高専・各務原市連携事業ツアーガイドロボット開発推進委員会「ツアーガイドロボット開発プロジェクト」委員
- ・TPIP ユーザーコミュニティ主査

【阿部亮吾】

- ・公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金（あいちモリコロ基金）予備審査員
- ・日本地理学会秋季学術大会 2010 大会準備委員
- ・地震に強いものづくり地域の会（あいぼう会）運営委員
- ・名古屋市港区多文化共生推進協議会 オブザーバー

●外部資金 獲得状況

【正木和明】

・正木和明, 王欣「中国四川地震の強震動予測と建物被害の関係に関する研究」40万円, 愛知工業大学大学院高度化推進経費, 2010年6月～2011年3月

【入倉孝次郎】

・入倉孝次郎 (代表者), 「最近の被害地震の観測記録に基づく強震動予測レシピの検証とその改良」481万円, 科学研究費補助金, 2008年4月～2011年3月

【建部謙治】

・建部謙治, 「大地震時における企業防災診断システムの開発と展開」, 403万円, 科学研究費補助金, 研究期間2009年4月～2012年3月

【奥川雅之】

・奥川雅之, 「スマートワッシャによるボルト緩み評価診断システムの開発」, 130万円, JST A-STEP フィージビリティスタディステージ探索タイプ, 2010年10月～2011年3月

【阿部亮吾】

・阿部亮吾, 日本型多文化共生社会の構築と展望に関する実証的・理論的研究, 65万円, 文部科学省科学研究費 若手研究 (B), 2010年4月～2014年3月

●業績リスト

○著書

【入倉孝次郎】

・入倉孝次郎 (共著): 「科学者の倫理と行動規範」, 倫理への問いと大学の使命, 159-172 (2010年3月)

○論文 (審査有)

【正木和明】

・X. Wang, K. Masaki and K. Irikura, 「Building Damage Criteria from Strong Ground Motion Characteristics during the 2008 Wenchuan Earthquake」, Journal of Earthquake Engineering (in press)

【入倉孝次郎】

・Kojiro Irikura and Hiroe Miyake : Recipe for predicting strong ground motion from crustal earthquake scenarios, Pure and Applied Geophysics, 168, 85-104(2011.1)

【奥村哲夫】

- ・中村吉男・島崎 勝・成田国朝・奥村哲夫・大根義男：耐震を目的としたアスファルト遮水壁材料の開発，ダム工学，Vol.20，No.3，PP.160～171(2010.9)
- ・中村吉男・島崎 勝・成田国朝・奥村哲夫・大根義男：アスファルト表面遮水型ダムの耐震性評価に関する研究，ダム工学，Vol.20，No.4，PP.212～223(2010.12)

【奥川雅之】

- ・小林 義光，高木 健太，佐々木 実，奥川 雅之，「磁気浮上搬送のためのオブザーバによる2次元位置推定」，日本機械学会論文集（C編），Vol. 76，No. 772，pp. 3504-3511，2010年12月

○論文（研究報告集・紀要等）

【正木和明】

- ・正木和明，王欣，倉橋奨，呉浩，「2008四川地震（汶川地震）被災地における地盤・被災建物の微動測定」，愛知工業大学研究報告，第46号，（2011.3）

【建部謙治】

- ・建部謙治，青木徹彦，宮治眞，天野寛，井出政芳：「地震動による人の心理学的・生理学的影響に関する研究」，愛知工業大学研究報告，第46号B，pp165-176(2011.3)
- ・建部謙治，高橋郁夫，内藤克己：「企業従業員を対象とした地震防災映画の製作」，「私立大学学術研究高度化推進事業」，産学連携研究推進事業，地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発，愛知工業大学地域防災研究センター，vol.6，pp.41-44（2010.7）
- ・宮下邦義，建部謙治，青木徹彦，宮治眞，天野寛，井出政芳：「地震動による人の心理・生理学的影響に関する研究」，「私立大学学術研究高度化推進事業」，産学連携研究推進事業，地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発，愛知工業大学地域防災研究センター，vol.6，pp.45-46（2010.7）
- ・高橋郁夫，建部謙治，田村和夫：「岩手・宮城内陸地震における企業の被害調査と分析」，「私立大学学術研究高度化推進事業」，産学連携研究推進事業，地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発，愛知工業大学地域防災研究センター vol.6，pp.47-48（2010.7）
- ・田村和夫，建部謙治：「生産設備の地震時被害予測調査」，「私立大学学術研究高度化推進事業」，産学連携研究推進事業，地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発，愛知工業大学地域防災研究センター，vol.6，pp.49-51（2010.7）
- ・建部謙治，小橋勉，田村和夫，高橋郁夫：「地震時BCP概念図に関わる経営指標の検討」，「私立大学学術研究高度化推進事業」，産学連携研究推進事業，地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発，愛知工業大学地域防災研究センター，vol.6，pp.52-54（2010.7）
- ・建部謙治：「小学校との地震防災に関する第2回目の合同研究会開催」，「私立大学学術研究高度化推進事業」，産学連携研究推進事業，地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発，愛知工業大学地域防災研究センター，vol.6，pp.106（2010.7）

【鳥居雅隆】

- ・鳥居雅隆：持続可能な廃棄物処理に向けた総合的廃棄物管理に関する研究，愛知工業大学研究報告，第46号，pp.217-225(2011.3)

○その他（報告書など）

【入倉孝次郎】

- ・入倉孝次郎：「地震調査研究への期待」文部科学省『地震本部ニュース』（2010年9月）
- ・入倉孝次郎：「地震防災のための強震動予測－阪神・淡路大震災そして新潟県中越沖地震に学ぶ－」関西地質調査業協会広報誌 GEO6号（2011年1月）
- ・入倉孝次郎：「原子力発電所における耐震とは何か」日本原子力学会誌アトモス53（3）19（2011年3月）
- ・入倉孝次郎：「耐震設計審査指針とバックチェック」日本原子力学会誌アトモス53（3）25－30（2011年3月）

【阿部亮吾】

- ・正木和明・内藤克己・阿部亮吾「防災キャンパス構想の予備調査」，愛知工業大学地域防災研究センター編『地域防災研究センター年次報告書 Vol.6』愛知工業大学地域防災研究センター，pp26－27（2010.7）
- ・阿部亮吾・早川澄男・川口祐有子「外国人集住団地における外国籍住民の防災－団地自治会の役割を中心に－」，愛知工業大学地域防災研究センター編『地域防災研究センター年次報告書 Vol.6』愛知工業大学地域防災研究センター，pp28－32（2010.7）
- ・阿部亮吾・早川澄男「地域防災力再考－町内会と企業の地域連携を目指して－」，愛知工業大学地域防災研究センター編『地域防災研究センター年次報告書 Vol.6』愛知工業大学地域防災研究センター，pp60－64（2010.7）
- ・ABE, Ryogo「(Un)constructing the local multicultural society: A case study of Filipino migrants in Nagoya, Japan」

Social Environment in Contemporary East Asia in the Age of Migration: International and Interdisciplinary Studies on Ageing, Agriculture and Multicultural Situations, pp19-25. (2011.3)

○学会発表・プロシーディングス

【正木和明】

- ・Wan Xin, Kazuaki Masaki and Kojiro Irikura, 「The Relationship between Building Damage and Characteristics of Strong Ground Motion」, Japan Geoscience Union Meeting 2010, SSS025-12, (2010.5)
- ・王欣, 正木和明, 入倉孝次郎, 「四川地震の被害地における建物常時微動観測および被害建物の応答特性の抽出」, 日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）, 21512, pp. 1023-1024, (2010.9)
- ・田頭庄三, 正木和明, 入倉孝次郎, 倉橋奨, 「超高層建築物の固有周期における常時微動測定と設計値との差分に関する研究」, 日本建築学会大会講演梗概集（北陸）, 21014, p.27, (2010.9)
- ・王欣, 入倉孝次郎, 正木和明, 「常時微動観測による建物の応答特性の抽出」, 日本地震学会 2010 年秋季大会講演予稿集, (2010.10)
- ・王欣, 正木和明, 入倉孝次郎, 「四川地震の被害地における建物常時微動観測および被害建物の応答特性の抽出」, 第 13 回日本地震工学会シンポジウム論文集, GO27-Thu-PM-3, pp. 744-751, (2010.11)

【建部謙治】

- ・荒井大輔, 建部謙治：「公共空間における落書きの特徴と犯罪との関係」, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第 49 号, pp.689-692(2011.2)
- ・建部謙治, 田村和夫, 高橋郁夫：「地震時 BCP 概念図に関わる経営指標の検討」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp. 923-924 (2010.9)

- ・高橋郁夫, 建部謙治, 田村和夫:「岩手・宮城内陸地震における中小企業の被害の実態調査」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 B-2, pp.1039-1040 (2010.9)
- ・宮下邦義, 建部謙治:「地震動による人の心理・生理学的影響に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1, pp. 1023-1024 (2010.9)
- ・荒井大輔, 建部謙治:「日本とブラジルにおける防火教育に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1, pp.1003-1004 (2010.9)

【奥村哲夫】

- ・鈴木森晶・奥村哲夫:加振方向角を変えた矩形型貯槽のスロッシング現象に関する基礎的実験, 土木学会第 65 回年次学術講演会概要集, I -646, pp.1291-1292(2010.9)

【奥川雅之】

- ・小林義光, 高木健太, 佐々木実, 奥川雅之, 「磁気浮上搬送のためのオブザーバによる 2 次元位置推定」, 第 22 回「電磁気関連のダイナミクス」シンポジウム講演論文集, pp. 356-361, (2010.5)
- ・加藤雅大, 高田祐治, 吉村卓真, 渡辺修, 奥川雅之, 「慣性ロータを利用した一輪型移動ロボットの不倒安定化制御」, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 ROBOMECH2010 講演論文集 (DVD-ROM), 2P1-F08, (2010.6)
- ・椋木新, 小林義光, 奥川雅之, 加藤雅大, 「自己復元機構を有する倒立振子型移動ロボットの走行制御」, 第 53 回自動制御連合講演会講演論文集, pp. 860-864, (2010.11)
- ・高田祐治, 奥川雅之, 「スーパーバイザーによるボルト緩み評価診断システムの構築」, 第 53 回自動制御連合講演会講演論文集, pp. 1220-1225, (2010.11)
- ・奥川雅之, 高田祐治, 「ボルト締結体の緩み評価診断を目的としたリモートヘルスマニタリングシステムの構築」, 日本機械学会第 9 回評価・診断に関するシンポジウム講演論文集, PP. 109-112, (2010.12)
- ・土井智晴, 奥川雅之, 宗澤良臣, 山内 仁, 「第 10 回レスキューロボットコンテストのまとめ」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 482-485, (2010.12)
- ・向井裕貴, 加藤悠記, 大道拓磨, 飯田恭平, 奥川雅之, 「長湫ボーダーズのロボットシステム」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 521-524, (2010.12)
- ・高田祐治, 奥川雅之, 「ボルト締結体の緩み評価診断を目的としたヘルスマニタリングシステムの構築」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 590-593, (2010.12)
- ・寺西大, 土井智晴, レスコンシーズ安芸版実行委員会, 福祉科学研究会, 奥川雅之, 「レスキューロボットコンテスト・シーズジャンボリー 2010 in KOBE の実施報告」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 789-792, (2010.12)
- ・奥川雅之, 「レスコンシーズ in Taiwan」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 803-804, (2010.12)
- ・出口雄介, 渡辺修, 奥川雅之, 「慣性ロータとステアリング操作によるバイク型二輪車の安定制御」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 963-966, (2010.12)
- ・奥川雅之, 「移動ロボットにおける遠隔操縦支援システムの研究開発動向」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 1214-1216, (2010.12)
- ・片山雄二, 生沼秀司, 長井健一郎, 石井達哉, 奥川雅之, 「遠隔操縦ロボットにおける制御システム」, 第 11

回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 1217-1219, (2010.12)

・岩田直樹, 片山雄二, 奥川雅之, 「遠隔操作システムの組み込みソフトウェア開発環境の構築」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 1220-1223, (2010.12)

・坂本典之, 奥川雅之, 「屋外作業を想定したポーターロボットの人の追従制御」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 1250-1253, (2010.12)

・加藤雅大, 奥川雅之, 椋木新, 小林義光, 「遠隔操縦支援システムのツアーガイドロボットへの応用」, 第 11 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) 論文集 DVD-ROM, pp. 1254-1257, (2010.12)

・池田友宏, 渡辺修, 奥川雅之, 「ステアリング操作と重心移動機構を用いたバイク型二輪車の安定制御」, 日本機械学会東海支部第 60 期総会講演会講演論文集, No.113-1, pp. 61-62, (2011.3)

【山本義幸】

・Yoshiyuki Yamamoto, Norimitsu Koike, Kazuaki Masaki : 「A Development of Disaster Information Systems using Social Media」, 日本災害情報学会第 1 2 回研究発表大会予稿集, pp (2010.10)

【倉橋奨】

・倉橋奨, 入倉孝次郎, 2008 年 Wenchuan 地震における強震動シミュレーションのための震源モデルの構築, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, (2010.5)

・倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎, 震源近傍域における最大加速度の飽和域を用いた巨大地震の震度の即時評価 - 巨大地震に対応した緊急地震速報に構築に向けて, 第 13 回に本地震工学シンポジウム, 2010 年 11 月 18 ~ 20 日, つくば, (2010.11)

【鳥居雅隆】

鳥居雅隆, 成田暢彦, 小川克郎: 小規模都市における廃棄物系バイオマス利用を考慮したゴミ処理インベントリ分析, 第 6 回日本 LCA 学会研究発表会講演要旨集, pp.316-317 (2011.3)

【阿部亮吾】

・阿部亮吾, 「フィリピン系移民の組織化とローカルな多文化共生への関わり」, 2011 日本地理学会春季学術大会 (於: 明治大学) (2011.3)

・ABE, Ryogo.

「Constructing the local multicultural society: A case of Filipino migrants in Nagoya, Japan」 International Symposium on Social Environment in Contemporary East Asia in the Age of Migration: International and Interdisciplinary Studies on Aging, Agriculture and Multicultural Situations (at Nagoya University) . (2011.2)

【佐口浩一郎】

・佐口浩一郎・倉橋奨・正木和明・入倉孝次郎: 「柏崎刈羽原子力発電所における 2007 年新潟県中越沖地震の強震動特性 -2 次元 FEM による非線形強震動シミュレーション-」, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SSS016-P21, (2010.5)

・佐口浩一郎・倉橋奨・入倉孝次郎・正木和明: 「経験的グリーン関数法と FEM を用いた 2007 年新潟県中

越沖地震の強震動シミュレーション」, 土木学会平成 22 年度全国大会 第 65 回年次学術講演会講演概要集, pp.691-692, (2010.9)

・佐口浩一郎・鈴木結理・正木和明・倉橋奨・入倉孝次郎:「深層および浅層の 3 次元構造を考慮した柏崎刈羽原子力発電所における 2007 年新潟県中越沖地震の強震動シミュレーション」, 第 13 回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.3858-3865, (2010.11)